

リーディングDXスクール事業【実践事例】

松阪市立米ノ庄小学校（三重県）【指定校】

【取組内容】「知識スキル」と「能力スキル」の育成

1 テーマ

情報活用能力を多面的に育成する

2 実践前の課題

児童は各学年で様々な場面でタブレットを活用しはじめているが、児童の情報活用能力の差が、学習への意欲や学びのつながりに影響を与えている場面もある。具体例を2つ挙げる。

一つ目は、情報手段の基本的な操作の一つタイピングである。自分の考えをタイピング入力する場面では、考えをもっているが、タイピングが苦手な児童は、タイピングすることが目的となり、考えを出し合って議論をする前に意欲が低下してしまうことがあった。

二つ目は、情報の整理・比較に係る能力である写真の利用である。児童はタブレットで容易に写真を撮ることができるが、撮影した写真の扱い方（多くの撮影した写真から必要なものを選択する、写真の大切なところをトリミングする等）に差があると、その後の学習に影響がみられた。

3 課題解決に向けた実践の概要

本校児童において、育むべき情報活用能力を、プレゼンソフトの使い方、共同編集の仕方、写真のトリミング等の「知識スキル」と、正確に、素早くタイピング入力する力等の「能力スキル」に分け、これらを授業の中で習得させる実践を行った。

「知識スキル」については、単元のまとめ動画の作成、撮影した写真をまとめて使用する場面等で、教師がスキルのすべてを教えるのではなく、一つの使い方だけを教え、実際に活用する場面や、子どもたちが使い方を教え合う場面を設け、スキルの習得を目指した。

「能力スキル」については、タイピングソフトを活用し、年間を通して、休み時間に自由に活用できる場面や、クラスでタイピングコンテストを設け、子どもたちの意欲を高めながらスキルの習得を目指した。

4 実践のポイント

「知識スキル」

・基礎から発展

授業で動画づくりに関わる「知識スキル」を習得した後、これらの「知識スキル」を活用する課題を例えば、長期休業の家庭学習に課し、児童が自由に知識スキルを活用する機会を設定した。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

松阪市立米ノ庄小学校（三重県）【指定校】

【取組内容】 「知識スキル」と「活用スキル」の育成

・ 成果物の共有

習得した知識スキルを利用した児童の成果物は、クラス全体で共有し、よりよい活用のイメージを児童に意識させた。

「能力スキル」

・ 履歴の活用

タイピングの結果はタブレットに記録し、過去の自分の成績と比較できるようにした、

・ 継続した意欲を高める工夫

クラスでコンテストを定期的に行った。結果によって5段階の認定書（生成AIで作成した画像を取り込んだ認定書）を用意し児童の意欲を高めた。

5 成果と課題

(1) 成果

「知識スキル」については、教え込むことは極力避け、友達の活用の様子を見たり、自ら活用したりすることで、児童は知識スキルを柔軟に増やしていった。また、スキルの活用が学習方略の一つとなり、その後、様々な学習活動の中で、スキルを活用する姿がみられた。

「能力スキル」については、クラスのイベントとして位置付けることで、子どもたちの意欲を継続させることができた。

(2) 課題

「知識スキル」の習得に比べ「能力スキル」の習得には一定の時間が必要で時間がかかる。児童によっては継続して取り組んでいるが、なかなかスキルを習得できない場合もある。

継続的に児童の意欲を保つために、教室環境、保護者の協力等さらなる工夫が必要である。